

ほなみの風

11日朝 ある教室の黒板の絵



新しい年 ポジティブにいきましょう

校長室には、日々各学年・学級で発行している「学年便り」や「学級便り」が届けられます。どのお便りもご家庭への連絡のほかに、「学校の様子を伝えたい」「子どもたちの頑張っている様子を伝えたい」と、各担任が思いをもってつくっています。私もお便りから学級での子どもたちの様子や各担任の思いを知ることができています。その中のある学級のお便りを抜粋して紹介します。

【前文省略】学級では、自分に自信を持たせたり、自分を大切に思う気持ち（自己肯定感）を高めさせたりするために、「いいこと探し」を行っています。そして、一人一人の良いところや頑張ったことなどを付箋に書いて、一人一人の画用紙に貼り、褒めたことを「見える化」しています。これは、NHKの子育て番組の中で紹介されていたものを研修会で知ったので、学級で実践しています。

その番組では、ネガティブトーク（「○○しなさい」「どうしてやっていないの」「そんなことあたりまえでしょ」）をポジティブトークに替えることを紹介していました。ポジティブトークとは、意図的に褒める、子どもの言葉を繰り返す、子どもの行動を言葉にすることです。例えば、漢字練習を行っていたら、「漢字練習していたんだね」と認めたり、子どもから「宿題やったよ」と言われたら、「宿題終わったんだね」と肯定的に受け止めたりするポジティブトークが紹介されていました。

まずは、1日5分から、ご家庭でも「ポジティブトーク」を通して、お家の方もお子さんもうれしい・楽しい時間をすごしてほしいと思います。

共働きのご家庭が増える中で、家族皆が忙しい毎日かと思えます。私自身の子育て時期をふりかえっても、日々の忙しさを理由にして、自分の子どもにはゆとりをもって接することができていなかったなと反省します。そうした忙しい中でも、このお便りにある「1日5分でも…」の言葉どおり、短い時間でも「ポジティブトーク」をすることで、良い時間を意図的に生み出していければと思います。また、子育てに限らず、大人同士でも「ポジティブトーク」をとおして、互いを認め合い、思いやる関係づくりを進めていきたいものです。



